



iPad & iOS

初心者のための アップグレードガイド

iOS 26とiPadOS 26へのアップグレードに向けて知っておきたいこと



iPadOSとiOSをアップグレード するための準備はお済みですか？

Appleは毎年iOSとiPadOSのメジャーバージョンをリリースしています。IT・セキュリティ部門には、日々の業務や生産性を損なうことなく、エンドユーザーが新しいシステムとその機能を活用できるよう支援することが求められます。

Appleのアップグレードの特徴

他のオペレーティングシステム (OS) とは異なり、AppleはOSの大型リリース (別名「アップグレード」) を1年に一度行います。これにはmacOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOS、visionOSが含まれます。デバイスのOSを古いままにしておくと、一貫性、セキュリティ、およびユーザエクスペリエンスが損なわれる可能性があります。また、組織がさまざまな種類のデバイスや複数の地域をサポートしなければならない場合、デバイスを簡単かつ速やかにアップグレードすることがさらに重要になります。

プロセスがシンプルなこと、そして無償で行えることにより、Apple OSのアップグレードは業界トップレベルの導入率を誇ります。エンドユーザは新機能の利用を楽しみにしていますが、IT管理者には常にセキュリティ対策と正確なシステム資産の管理が求められます。

多くのIT部門が認識しているように、これは決して容易なことではありません。特に、ユーザの期待に応えるスピードでアップグレードを行うのは、大きな負担となる場合があります。ですが、ここで朗報です。

Jamfは20年以上にわたり、Appleのアップグレードを成功させるための詳細なガイドを提供してきました。初めてアップグレードを行う人だけでなく、手早くおさらいしたい経験豊富な管理者にも役立つ内容となっています。

新しいOSがリリースされたら直ちにデバイスをアップデートすべき主な理由として、以下の4点が挙げられます。

1. セキュリティの脆弱性の低減
2. 素晴らしいユーザエクスペリエンスの維持
3. ユーザの生産性の維持
4. 最新のIT管理機能へのアクセス

このガイドでは、最新のiOSやiPadOSへのアップグレードを準備および実行する方法について詳しく説明します。さらに、業務への影響や予期せぬダウンタイムを防ぎつつ、iOS/iPadOS 26 へのアップグレードを通じてユーザを支援し、組織に貢献するための知識が得られます。



ベータ版での 検証

Apple Beta Software Programが提供する次期リリースのプレビューを利用すると、最新のOSバージョンや機能が組織にどのような影響を与えるかについていち早く知ることができます。

ベータプログラムに参加することで、正式なリリースの数ヶ月前に検証を始めることができます。Appleは、macOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOS、visionOS向けに、有償の開発者向けプログラムと、無償のパブリックベータプログラムを提供しています。

ベータプログラムに参加すべき理由

1. **オペレーティングシステムのベータプログラムは通常、複数のフェーズから構成されます。**初期段階から参加し、Appleにフィードバックを提出することで、組織に大きな影響を与える可能性のある問題が解決する可能性が高まります。また、最初にバグを報告した人はサポートの進捗状態を確認することができます（その後に届いた重複したチケットはクローズされます）。
2. **ベータプログラムに参加すると、新機能や互換性をいち早く試すことができるだけでなく、ユーザエクスペリエンスにどのような影響があるのかについて理解を深めることができます。**新たに追加された設定、移動した機能、名称の変更などが把握できるので、トレーニング素材、オリエンテーション資料、ITポリシーなどを更新する際に役立ちます。

このようにしてユーザエクスペリエンスの変化に備えることで、ユーザに配慮したサポートモデルやコミュニケーションプランを用意することができます。

3. **最後に、新たなOSの設定や機能だけではなく、アプリケーション、インフラ、管理やセキュリティとの互換性を事前に検証することが、現在の環境で使用されているソフトウェアを引き続き使用するにあたって不可欠です。**Appleが提供するベータ版を試用し、導入されたアプリに問題がないか検証することをお勧めします。最新OSがリリースされたタイミングでアプリが問題なく機能するように、発見された問題について関連するベンダーに速やかに伝えることも大切です。

[Appleのベータプログラム](#)には、無料でいつでも参加できます。将来のOSテストに備えて、早期の情報取得や検証準備に役立つメリットが得られます。品質とユーザビリティに関するフィードバックは、Appleが問題を特定および修正し、ソフトウェアをユーザにとってより良いものにする上で役立ちます。

検証

最良の結果を得るために、またアップグレードがエンドユーザのワークフローに予期せぬ影響を与えることのないように、以下をはじめとする技術スタック全体の検証をお勧めします。

1 インフラ

VPNやプリンタドライバなど、アプリケーションスタック以外のものは必ず最新OSで検証する必要があります。クラウドホスティングサービスに移行しつつある組織は、このステップがあまり重要でない場合もあります。

2 アプリケーション

これにはWebベースのものと、そうでないものが含まれます。すべてのアプリケーションを検証する時間がない場合は、互換性に関するベンダーの声明に基づいて優先順位を決定します。自社のWebサイトやドキュメント、または直接のやり取りの中で、将来的な互換性情報を積極的に発信していないベンダーについては、アプリの動作を事前にご自身で確認するのが最善です。

3 デバイス管理

これにはデバイス導入と管理のソリューション（MDM、EMM、UEMなど）が含まれます。お使いのデバイス管理ソリューションで最新OSの管理機能や制限などを検証できるかどうか確認してください。

4 セキュリティ

これには、アイデンティティとアクセス、エンドポイント保護、脅威防御、コンテンツフィルタリングが含まれます。前述の管理ソリューションと同様に、お使いのセキュリティソリューションにも新しいセキュリティ機能や仕様をテストできる機能が備わっているかを確認しましょう。

検証の優先 順位の決定

多くの組織では複数のアプリが業務に使用されています。チームによってまったく異なるデバイスの使い方をしているためです。アプリの検証を成功させるには、まず優先順位を決めることが大切です。

アプリの重要度に基づいて検証の優先順位を高・中・低の3段階にランク付けする方法や、アプリの使用状況から優先順位を決める方法があります。優先順位の決め方と分類が決まったら、検証を行なってくれる志願者を各部署（例：開発、マーケティング、財務など）から募り、日常業務での使い心地や物事がスムーズに進むかどうかを確認します。

iPadOS、iOS、tvOSのアプリはアーキテクチャが異なるため、これらのプラットフォームにおいては手軽な検証が適しています。



OS 26へのアップグレード

実際にiPadやiPhoneデバイスにアップグレードを導入・実行するにあたり、2つの選択肢があります。ユーザ主導のアップグレードと、IT部門主導のアップグレードです。



各アップグレードオプションについてはこれから詳しくご説明しますが、Jamfなどの管理ソリューションを利用しているお客様には、まだ検証中であつたり、アップグレードの準備が整っていなかったりする場合に、アップデートをリリース日以降まで延期するオプションがあります。延長期間中、ユーザはデバイスをアップグレードできません。アップデートを実行する準備ができたなら、最新OSの導入を実行します。

アップグレードする準備ができている場合

アップグレードを決行する場合は、ユーザとIT部門のどちらが行うのかを決めなければなりません。

ユーザ主導のアップグレード

ユーザ自身がアップグレードを行う場合は、デバイスの設定メニューからインストールを行います。IT部門の介入は必要ありません。

IT部門主導のアップグレード

Apple Business ManagerまたはApple School Managerでデバイスを管理している場合、IT部門がMDMコマンドを送信して最新OSをインストールすることができます。この際、ユーザの介入は必要ありません。

このコマンドは個々のデバイスまたはグループに向けて送信することができ、組織のニーズに合った形でアップグレードを行うことが可能です。

注意: デバイスにパスコードが設定されていない場合は、インストールを自動的に行うことができます。パスコードが設定されている場合は、アップデートはキューに追加され、インストールを開始するためのパスコードの入力をユーザに促します。

OS 26へのアップグレード

ブループリントを使用することで、Appleデバイスの管理を簡素化できます。



ブループリントでは宣言型デバイス管理 (DDM) プロトコルを利用し、体系的なワークフローでiPhoneやiPadのアップグレードを実行できます。複数の手順が1つのプロセスにまとめられているので、複雑な導入も手間なく進められます。

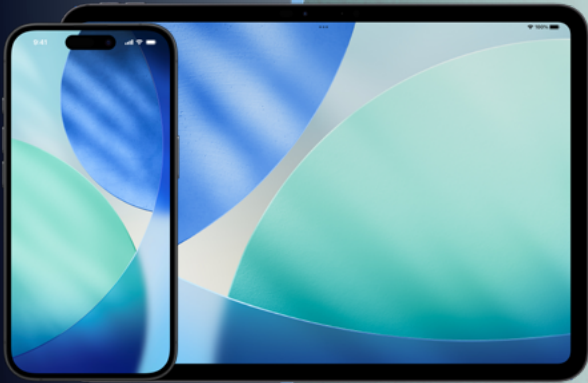
ブループリントの使い方はシンプルで、IT管理者がブループリントを作成し、対象のデバイスとOSバージョンを定義し、インストールのオプションを選んで、ユーザ環境を構成するだけです。前述のとおりブループリントはDDMを利用しているので、デバイスからアップデートの進捗状況が積極的かつ自動的にJamf Proにフィードバックされます。

今回のiOS/iPadOS 26へのアップグレードのように、OSのメジャーアップグレードを行う場合、ソフトウェアアップデート宣言を利用して都合の良い日時に自動でアップデートが行われるよう設定することをお勧めします。

ブループリントは、Jamf for K-12、Jamf for Mac、Jamf for Mobile、Jamf Premium Cloud でご利用いただけます。

[ブループリントを使ってiOSアップグレードやアップデートを導入する方法について知りたい方はこちらをご覧ください。](#)

宣言型デバイス管理を使用した 管理対象ソフトウェアアップ デート機能



Jamf Cloudでは、宣言型デバイス管理による管理対象ソフトウェアアップデート機能を使って**強制適用の期限を設定**することができ、Jamf Pro経由で特定のデバイスグループに対してアップデートのバージョンや期限を簡単に指定することができます。

アップデートの詳細が定義されたら、iOSが適用の期限やアップデートに関する通知やリマインダーをエンドユーザーに送信します。また、デバイスからは、アップデートの進捗状況が積極的かつ自動的に Jamf Pro にフィードバックされます。

ご利用には、iOS 26またはiPadOS 26以降のモバイルデバイスが必要です。tvOS、visionOS、watchOSは強制適用の期限設定機能には対応していません。Jamf Cloud カスタマーのみご利用いただけます。

アップグレード の準備ができ ていない場合



いつアップグレードする場合でも、その当日からセキュリティが確保されます

構成プロファイルに追加された RecommendationCadence キーにより、アップデートの選択肢がさらに増えました。

リリース直後に最新バージョンにアップデートすることで、ユーザは最新の機能やセキュリティ設定をすぐに利用できるようになります。これ自体は素晴らしいことですが、現場に新しいOSを展開する準備ができておらず、もう少し時間が必要な場合もあります。あるいは、全面的なアップデートを行う前にセキュリティアップデートを行わなければならないケースもあります。

このような場合には、以前のオペレーティングシステムを使い続けながら、必要なセキュリティ設定だけをアップデートするオプションもあります。例えば、監視対象の iPhone デバイスが iOS 18.5 で動作している場合、iOS 26 へのメジャーアップグレードを行う前に iOS 18.6 にアップデートするオプションがあります。

これにより、セキュリティアップデートを確実に適用しつつ、準備が整ったタイミングで計画的に OS アップデートを実施できます。

エンドユーザへの通知

最後に、アップグレードによってデバイスで何が起こるのか、そしてどのような形で協力して欲しいのかについて、率直かつ高い透明性を持ってエンドユーザに定期的に伝えましょう。これはアップグレードのプロセス全体を通して常に意識すべきことです。

いつアップグレードできるのか、どのようなプロセスになるのか、またはなぜすぐにはアップグレードできないのかといったことに関して、エンドユーザと双方向のコミュニケーションを維持することでプロセスがスムーズになります。

コミュニケーションは、このプロジェクトに関連して起票されるヘルプデスクのチケット数やコール数を抑制するというメリットももたらします。さらに、これらの要望や問い合わせに先回りして対応することで、エンドユーザの満足度を高められるだけでなく、いざ協力が必要になった際にも積極的に関与してもらいやすくなります。

あらかじめエンドユーザに伝えるべきこと

1. アップグレードにかかる時間について予備知識がないエンドユーザもいます。アップグレードにかかる平均時間と実行する最適な時間帯についてユーザに知らせておきましょう。
2. アップデート前にデバイスをバックアップをするよう勧めましょう。ローカルだけでなくiCloudのバックアップも行っておく必要があります。
3. 決められた日から30日以内にアップデートする方針を固め、それが行われな場合はIT管理者側で実行することを通知しておきましょう。PCIDSSのコンプライアンスでは30日以内のアップデートが要件となっています。

メールやイントラネットで、またはSelf Serviceのアプリ経由で、OSのアップグレードの前に時間に余裕を持って警告と推奨事項の通知を行っておきましょう。最終的にはそれがエンドユーザのためになります。



アップグレードによる機能強化のメリットを享受する

iOS/iPadOS 26がもたらす改善とワークフローの強化により、Appleならではの柔軟でカスタマイズされたデバイスが手に入ります。

シームレスなアップグレードプロセスを実現することは、セキュリティ対策の徹底、正確なシステム資産管理、ダウンタイムの削減を実現するだけでなく、IT部門への信頼や社内評価の向上にも貢献します。Appleデバイスの管理に特化したソリューションがあれば、エンドユーザの利便性を損なわず、IT部門への負荷も最小限に抑えながら、最新のApple OSに対応するための必要な機能が備わります。

Jamfは、エンドユーザの体験を損なうことなく、OSアップグレードを含むAppleのライフサイクル管理を自動化することのできる、唯一の管理およびセキュリティソリューションを提供しています。また、20年以上にわたりApple製品のサポートに力を入れており、新しいOSが発売されたその日からサポートと互換性を約束しています。



トライアルに申し込む

または、販売代理店までお問い合わせください。